



 三菱ガス化学株式会社
新潟工場

環境・安全報告書

レスポンシブル・ケア

2018年度



MGC



目 次

	頁
◆ はじめに	2
◆ 新潟工場の概要	3
◆ 新潟工場 環境・安全・品質方針	5
◆ 新潟工場の環境・安全活動	6
◇ 年間目標と重点項目	6
◆ 新潟工場の環境・安全活動概況	7
◇ 環境保全	7
省エネルギーの推進	
産業廃棄物排出量の削減	
大気、排水、臭気、騒音への対応	
リサイクルへの取組み	
◇ 労働安全衛生	11
安全活動	
◇ 保安防災	12
保安防災活動	
◇ 化学品安全	12
品質・安全管理の徹底・顧客満足度のアップ	
◆ 地域社会との交流	13
◆ 新潟工場への代表的な質問	14

はじめに



執行役員 新潟工場長 高木 俊哉

三菱ガス化学株式会社新潟工場は、天然ガスをベースに製造されるメタノールやアンモニアを利用し、特徴のある化学製品を高圧ガスからポリマーまで幅広く製造しています。当工場の化学製品群や蓄積された独自技術は国内に留まらず、世界へ向けて供給しております。

2017年末に三菱ガス化学グループは、「MGCグループ環境サステナビリティ宣言」を公表いたしました。これは、気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、地球規模での環境の健全性を意識した行動を通じて、将来にわたって持続可能な社会発展の実現に貢献していくという宣言であります。当工場は、これまでも近隣の豊かな自然と調和し、持続可能な社会発展に貢献すると共に、こうした技術をのちの世代へ繋げていく運営を目指してきました。今後も「MGCグループ環境サステナビリティ宣言」を遵守し、コンプライアンスの遵守・安全安定運転を通じて社会と地域の皆様の安心と信頼を獲得し、地域の活性化に貢献できる工場であるべく維持発展して参りたいと切に考えております。

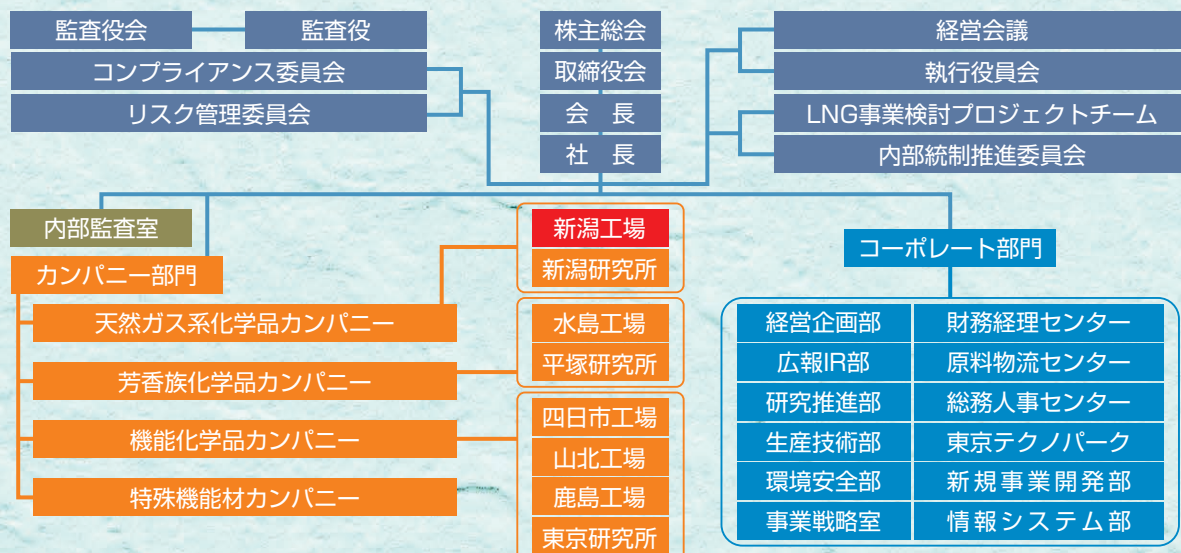
本レポートは、新潟工場における保安防災、環境保全にかかる自主活動等レスポンス・ケア(RC)活動の昨年一年間の実績を写真、図、データ等で皆様にご報告するものです。ご一読いただき、当工場の活動にご理解をいただく一助となれば幸いです。

今後もより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新潟工場の概要

当社の構成

当社はカンパニー制を採用しています。事業主体である四つのカンパニーと、経営スタッフでありカンパニーをサポートするコーポレート、それらを監察する内部監査室から構成されています。新潟工場は、天然ガスを基盤に事業展開する天然ガス系化学品カンパニーに所属しています。



新潟工場の概要

当工場は、日本海を戴く越後平野に立地し、阿賀野川の豊富な水と緑の環境の中で、自然と調和しながら、新潟地区の豊かな天然ガスをベースに、独自技術展開により発展を遂げてきました。

昭和27年、新潟市内榎地区での天然ガスを原料としたメタノール合成プラントをスタートにし、アンモニア・尿素およびその誘導品（ホルマリン、メチルアミン、青酸、メタキシレンジアミン（MXDA）等）の展開、事業化を行ってきました。天然ガスを起点とする展開はさらに、メタクリル酸エステル類、合成樹脂（MXナイロン、特殊ポリエステル、特殊アクリル系樹脂、シアネート樹脂等）、電子工業薬品（超純アンモニア水等）、ライフサイエンス製品へと広がっています。

また、当工場では、CO₂排出が少ないクリーン燃料として、工場内のエネルギー供給に天然ガスを利用しているほか、余剰スチームを工場内で発電に利用する等、特徴ある天然ガス系化学工場となっています。



- 所在地 新潟市北区松浜町3500番地
- 敷地面積 740,966㎡（石炭法上のレイアウト規制面積）
- 従業員数 444人（2017年12月末）
- 売上高 419.7億円（2017年度）

認証取得

◆国際標準の導入

当工場は、品質管理や環境保全に国際標準を積極的に導入し、社会からの信頼の向上に努めています。1995年1月にISO 9001を、1998年6月にISO 14001を認証取得しました。認証取得以降毎年定期監査と3年毎の更新監査を受審しています。

ISO9001、14001それぞれ2015年度版への移行を致しました。



ISO9001認定証



ISO14001認定証

◆高圧ガス認定取得

当工場は1956年に高圧ガス製造許可を得て以来、60余年間に亘り高圧ガス製造技術の向上と共に化学製品を市場に安定供給し続けています。

操業開始以来、工場の保安技術の改善を進めており、自主保安体制が確立した事業所として2000年に高圧ガス認定完成(保安)検査実施者を取得し、その後2005年、2010年、2015年と、5年毎の更新審査を経て引き続き安全に運転を実施しています。

自主保全をさらに推進し、安全・安定運転のため、より一層の保安技術の研鑽に努めてまいります。

◆ボイラー等の開放検査周期認定取得から更にその更新認定に向けて

1997年12月にボイラー及び第一種圧力容器について、運転や保守に関する管理体制が確立し、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が確実に行われていること等が認められ、基準を満たした2年連続運転(開放検査周期)の認定を取得しました。以来、開放検査周期認定を取得した機器を徐々に増やしており、当工場のボイラー等の安全保安管理は高い評価を受けています。

新規施設の紹介

当工場では1979年よりGMA(メタクリル酸グリシジル)を製造しています。GMAはメタクリル酸(MAA)の誘導品で、メタクリル基とエポキシ基を持つ反応性に優れたメタクリル酸エステルです。

これまで長期間に亘り、製造技術の改善と増産を繰り返し事業の拡大を行ってきましたが、近年の自動車のトップコートやアルミホイールなどへの粉体塗料向けの伸長により、更なる需要増加が見込まれています。

装置の能力を倍増し安定的な供給量を確保しつつ、全ユーザーの要求スペックに応えられる品質改善も盛り込んだ増産計画を立案し、2017年1月より着工、10月より運転を開始致しました。

新装置は大気中、水中への有害物質の放出を抑え、環境負荷を最小限にするため、既設装置のノウハウも踏襲し、排ガス、排水処理に関し万全の対策を講じています。



新潟工場 環境・安全・品質方針

環境・安全・品質方針

三菱ガス化学新潟工場は、クリーンエネルギーである天然ガスを生産、利用して特色のある化学製品を製造している天然ガス系化学工場です。

当工場は、「事業活動の最優先は安全の確保」を事業存立のための基盤とし、「環境負荷低減」「安全・無事故無災害」「安定操業・顧客満足」を目標に掲げ、MGCグループ「環境・安全方針」「環境サステナビリティ宣言」に従い、地球環境と地域に調和した安全で明るい工場を目指し、より良い製品を提供する生産活動に努め、社会の発展に貢献します。

1. 環境・安全・品質関係の法令、協定、社内規程を遵守する。
2. 品質を通じて顧客満足の獲得を図るとともに、環境・安全を通じて地域との共生を図る。
3. 設備の保安管理を確実なものとし、自主保安技術の向上に努めると共に、事業活動において保安に影響を与える危険源への適切な対処に努める。
4. 環境・安全・品質及びRCマネジメントシステムを確実に運用管理し、継続的に改善・向上させることにより、環境汚染、事故災害、不良品発生を未然に防止する。
5. 環境・安全・品質方針に従い、目標を設定し、定期的に見直すと共に、具体的な活動計画を策定し、その達成に努める。
6. 教育、社内広報活動を通じて、当工場の全従業員に、環境・安全・品質方針を周知させると共に、社外にも公開する。

2018 年 1 月 1 日

三菱ガス化学株式会社
執行役員 新潟工場長

高木俊哉

 三菱ガス化学株式会社

新潟工場の環境・安全活動

年間目標と重点項目

	全社基本方針	活動目標	具体的な実施事項
労働安全衛生	操業における健康、安全の確保	①日常的な安全活動の継続 ヒヤリ気懸り提案活動、非定常作業時におけるKY活動を通じ、協力会社を含めた事故ゼロの継続、労働災害撲滅、環境・品質クレーム撲滅をめざす。 ②コミュニケーション充実によりヒューマンエラー撲滅を図る。 ③過去事例教育、類似事故事例の周知、再発防止のための水平展開活動を推進する。 ④協力会社労災防止のため、支援、コミュニケーションの充実を推進する。 ⑤化学物質に係るリスクアセスメントを実施し、定着を図る。	◆全員参加のヒヤリキャンペーンを年4回実施し、提案された事例を解析し安全衛生委員会を通じて啓蒙する。 ◆非定常作業におけるKY活動を徹底する。 ◆TPM活動を通じ、徹底された不具合抽出復元、改善の実施と5Sによる業務改善に取り組む。 ◆過去の事故、労働災害の風化防止として継続的に教育する安全道場の設置を検討する。 ◆外部講師を招いたヒューマンエラー講習会を企画する。 ◆Bridge活動に則ってコミュニケーションの充実を図る。 ◆Bridge活動に沿って、トラブル理解度システムの運用を継続する。 ◆災害情報の共有及び災害防止の相互啓発、安全意識の高揚を図る。 ◆化学物質に係るリスクアセスメントの定着を図る。
保安防災	自主保安技術と現場力の向上による保安の確保	①安全担当をBridgeメンバーとし、NF全体参加となる活動を継続する。 ②「保安力評価システム」「事故防止ガイドライン」での評価結果を基に、計画的な改善を図り、保安力向上へ繋げる。 ③非定常時のリスクアセスメントの検討を行い、実施を進める。 ④教育訓練の充実、確実な実施。 ⑤過去の事故やトラブル事例を解析し、類似事項発生防止に努める。 ⑥防災訓練や、近隣関係会社、常駐協力会社及び公設消防との間の緊急時対応訓練を通じ、防火体制の充実を図る。 ⑦・本社と協調し設備管理の充実を推進する。 ・外部腐食管理を確実に実施し災害防止に努める ・保安管理システムの維持・改善 ・高圧ガス認定検査管理業務の見直しを図る。	◆定期的に安全担当者会議を開催し、全員参加の安全活動への取り組みを行う。 ◆保安力評価システム及び事故防止ガイドラインの評価結果を基に弱みの計画的な改善を立案、実行する。 ◆非定常時リスクアセスメント手法の検討を行い、実施を推進する。 ◆変更管理及び安全審査のフォローアップを確実に実施する。 ◆要則の見直しを検討する。 ◆教育計画に従い異常想定訓練等を実施する。 ◆保安道場、プロセス道場での教育を継続し、適切に運転できるオペレータの育成を継続する。 ◆スキル表の運用状況を調査し、有効な活用方法を提案する。 ◆過去発生した事故の対策及び水平展開事項の評価を実施する。 ◆過去トラブルの対策効果の検証を行い再発防止に繋げる。 ◆防災・避難訓練の過去の課題点を踏まえ、に近隣関係会社等との情報伝達、指揮系統を明確化し訓練シナリオに盛り込む。 ◆化学被害の近隣影響評価結果の活用を図る。 ◆外部腐食、新全体管理に使い、一次検査を進める。また新全体管理の実施状況を評価し、必要に応じ改善を図る。 ◆定例会を計画通り実施し、検査結果に基づく設備保全について進捗管理を継続的に行う。 ◆関係省庁やKHK等からの指摘コメントを反映し、より保安管理システムが有効に運用されるよう、要綱の見直しを検討する。
環境保全	環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献	①安全運転を通じて環境負荷の削減を継続する。 ・廃棄物削減・省エネルギー・リサイクルの推進 ・環境お膳の防止と社会からの信頼性向上 ②物多様性保全の取り組み。	◆トラブル報告システムの確実な運用と対策実施による再発防止を図る。 ◆環境管理計画を遂行する。 ◆事業所近隣の地域のクリーン活動や心理保全活動などに積極的に参加・協力する。
化学品・製品安全	化学品の取扱い・私用・廃棄における安全の確保	①製品及び原料SDSの最新版への反映と周知。 ②新製品開発時における安全性事前評価の実施。品質に関する教育やリスク評価の実施。 ③工場製品の国内外規制対応の実施。	◆SDS最新情報の毎月の定期監査と工場内へ周知する。 ◆原料SDSの最新版の入手し周知し、災害に関する物質のSDSは災害時速やかに取り出せる場所に保管する。 ◆変更内容に応じて、品質審査、環境安全審査を確実に実施する。 ◆変更管理において、変更内容に叔父値、品質審査、環境安全審査を確実に実施する。 ◆講習会等による国内外規制に対する知見を深める。
物流安全	原料・製品の物流における環境・安全の確保	物流における安全確保と環境負荷の低減の推進。 ①物流関連トラブルの集計と解析、水平展開の実施。 ②物流委託会社の安全監査の実施。 ③物流交通事故対応訓練の実施。	◆物流関連トラブルの集計と解析、水平展開を図る。 ◆物流関連会社に安全監査を計画、工場内の協力を以て実施する。 ◆物流交通事故の発生を想定した訓練を企画、他事業所や協力会社の協力を得て実施する。
社会との対話	ステークホルダーとの関係強化	ステークホルダーを意識して社会とのコミュニケーションの推進 ①環境安全報告書の発行。 ②社会・環境への貢献活動への参加と、社会とのコミュニケーションを推進する。 ③日化協RC委員会の事業活動へ参加する。	◆環境安全報告書を発行する。 ◆近隣交流行事への参加、近隣自治会会議への参加を通じて社会とのコミュニケーションを図る。 ◆日化協主催の他地区RC地域対話へ参加を検討する。
RC全般		①コンプライアンス教育を実施する。 ②他事業所のRC体制を参考にし、見直しを図る。 ③規定類整備・運用の確実な実施。	◆コンプライアンス教育としてMGC企業行動指針、行動規範の教育を実施する。 ◆他事業所のRC監査へオブザーバーとして参加する。 ◆規程・基準類の見直し計画を立案し、確実に実施する。 ◆各種監査で指摘された事項に対し適切に対応する。

新潟工場の環境・安全活動概況

環境保全

三菱ガス化学㈱新潟工場は、新潟工場「環境・安全・品質方針」、三菱ガス化学グループ「環境サステナビリティ宣言」に基づき環境・保全活動を推進しています。
＜環境サステナビリティ宣言＞

- ・エネルギーや原材料、水などの資源に関して環境影響の少ない調達を心掛け、資源の効率的な使用を推進する。
- ・温室効果ガスや環境汚染物質などによる環境負荷の削減対策を推進する。
- ・リサイクルなどを通じて廃棄物を削減すると共に、廃棄物を適正に管理・処分する。
- ・環境負荷の軽減や環境の回復・健全化に貢献する製品や技術の開発を促進・普及する。
- ・事業所の所在地における環境関連法令や、国際的ルールを遵守する。
- ・環境に関する取り組み情報を開示し、社会との良好なコミュニケーションを保持する。
- ・教育を通じて環境問題への意識向上を図る。



省エネルギーの推進

◆省エネルギーの実績

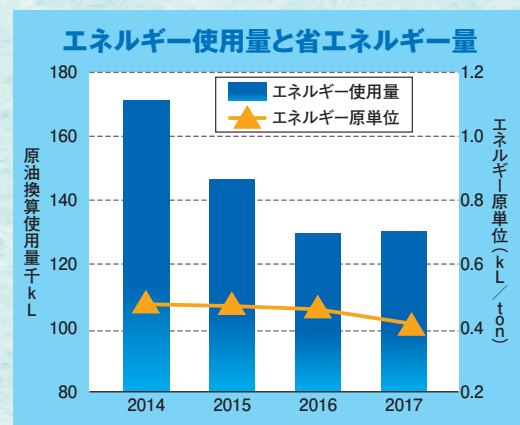
新潟工場では、エネルギーを合理的かつ有効に使用することによって、地球温暖化防止に貢献するとともに、限りある資源の有効利用を図り、環境にやさしい工場とすることを目的として省エネルギー活動を実施しています。

活動の目標を、2015年より3か年計画(新潟工場のエネルギー原単位を4%改善(23.5万GJ削減)*することを目標と致しました。

2017年の単年度の目標数値は、エネルギー原単位1.5%(8万GJ)*を削減するとし、精力的に取り組みを行った結果、目標数値を達成することができました。

今後も更なる省エネルギー、エネルギー使用量の削減に努めます。

*年間生産量30万tonをベースに換算



＜2017年度の取り組み＞

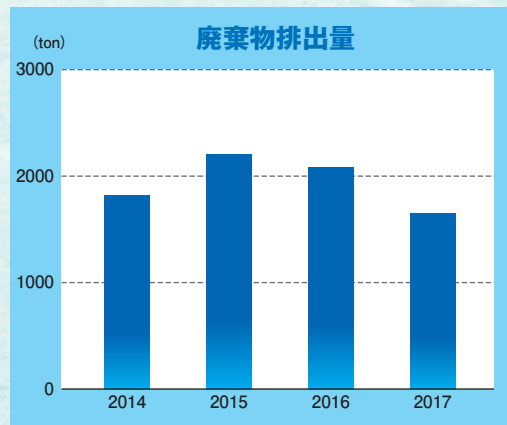
- 安定運転の継続(トラブル削減)、保温保冷やスチームトラップの適正管理
- スチームタービン導入、ガスエンジン発電機の導入による最適化運転
- 新設したメチルアミン装置の運転最適化
- 焼却炉の廃熱回収、最適化検討
- 事務所、道路灯のLED化
- 旧式エアコンの計画的更新 等

産業廃棄物排出量の削減

◆産業廃棄物の委託処理量の実績

2017年の廃棄物排出量は2016年実績を下回ることができました。2017年は突発的な装置停止による廃棄物増加はなく、また改善活動等により各装置から排出される産業廃棄物量も微減したことが主要因です。

引き続き安定運転に努め、産業廃棄物削減に取り組んでまいります。



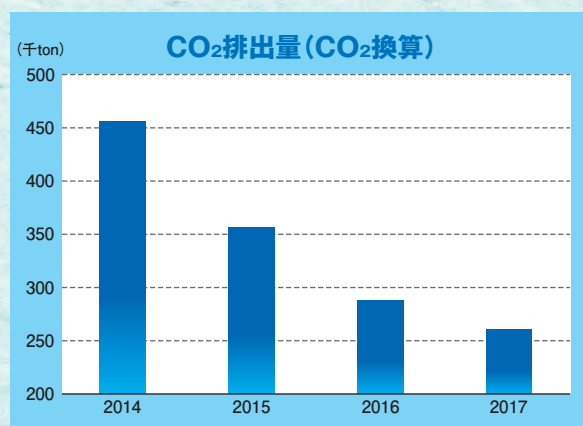
大気、排水、臭気、騒音への対応

◆大気汚染の防止

<二酸化炭素(CO₂)の排出実績>

2015年のアンモニア装置の停止に伴い、工場内電力デマンドと合わせ発電を最適化することによりCO₂排出量が大幅に減少しました。

2017年はそれを継続し、CO₂発生量は2014年の60%まで削減することができました。

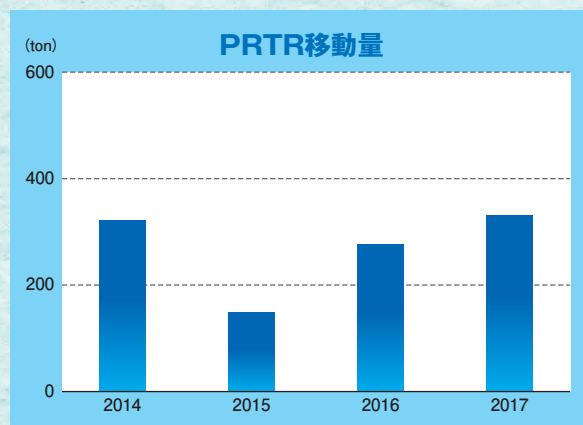


【記】この数値は、購入電力の発電時に排出されるCO₂を含んでいます。

<PRTR*への対応>

PRTR移動量とはPRTR物質の大気への排出量、事業所外への移動量、下水道への移動量等の合計数値を表しています。

2017年度は、PRTR対象物質を含む製品で不適合品が発生し、その処分を産業廃棄物としたため、結果としてPRTR移動量が微増しました。



MMA (メタクリル酸メチル) 廃ガス吸収塔

*PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 汚染物質排出・移動登録制度

事業者から、大気、水質、土壌への化学物質の排出量および廃棄物の移動量について、行政機関がデータ収集・整理し、社会に公開する制度。2002年度から実施、対象となる化学物質(第一種指定化学物質)は462物質。当工場で対象となる物質は以下の通りです。

- ・エチレンオキシド
- ・エピクロロヒドリン
- ・無機シアン化合物
- ・ジクロロメタン
- ・ホルムアルデヒド
- ・メタクリル酸
- ・メタクリル酸メチル
- ・メタクリル酸エステル類

◆排水管理の徹底

<活性汚泥処理設備>

当工場の製造工程から排出される排水は、微生物の働きを利用した活性汚泥装置により清澄な水に浄化しています。

新井郷川への放出口には緊急遮断弁を設置しており、万が一工場内の排水に異常があったとしても、工場外へ異常排水を流さないシステムを構築しています。



高速凝集沈殿装置
(汚泥を沈降させ、澄明な上水を放流します)

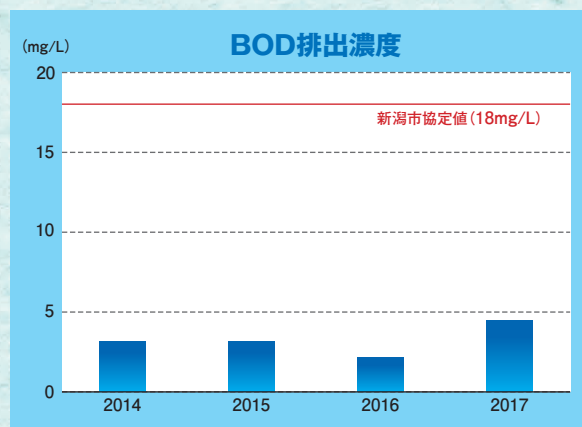


総合排水路出口の緊急遮断弁
(異常排水を新井郷川に流さないための設備です)

・ BOD*の排出濃度の実績

当工場の製造工程から排出される污水を、活性汚泥処理設備で処理し、BODを一般河川と同等レベルまで処理した後、新井郷川へ放流しています。

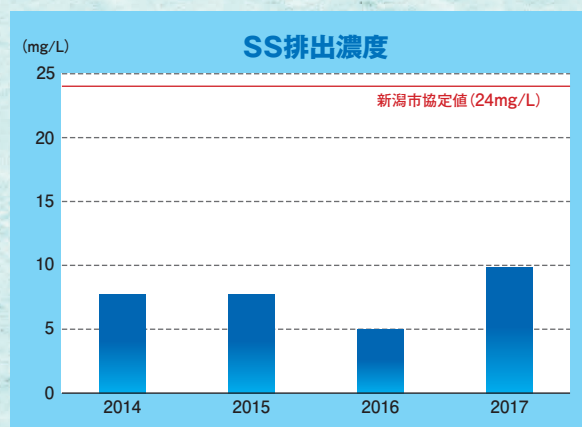
*BOD(生物化学的酸素要求量)は水の汚れを示す指標で、微生物が汚れを分解する時に消費される酸素の量をいいます。



・ SS*の排出濃度の実績

活性汚泥設備の安定運転に努める事により、SSの排出濃度を適正管理しています。

*SS(浮遊物質量)は水の濁りを示す指標で、工場から出る濁り分の他に原水(阿賀野川)の濁りも影響します。



◆臭気の削減

工場から臭気を出さない事は勿論ですが、24時間監視の臭気センサーやガス検知器を工場各所に設置し、もし臭気が出た場合でも、すぐに検知し調査・対応が図れる監視体制を構築しています。



表門守衛所の臭気センサー及びガス検知器

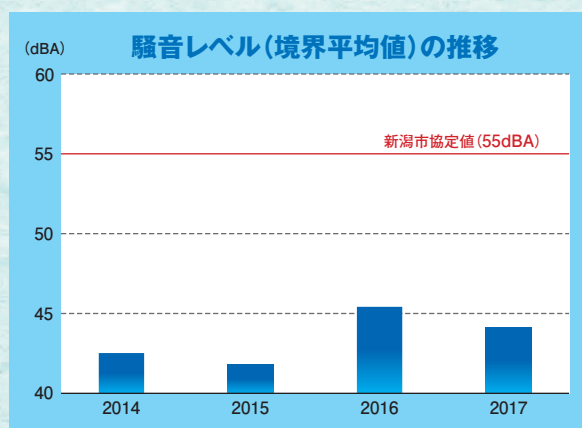


表門守衛所の臭気連続監視画面

◆騒音の削減

騒音源の多い製造施設を中心に、吸音材の施工や消音器、防音壁の設置等騒音発生源での対策に加え、敷地境界への植栽面積を増やし、継続的に騒音レベルの低減に努めています。

また、周辺地域における騒音測定も定期的に実施し、状況監視に努めています。



注) データは春秋及び昼夕夜の敷地境界の測点平均値



植栽



防音壁

リサイクルへの取組み

事務用紙の使用量の管理、事務用品のグリーン購入*を進め、環境への負荷軽減に努めています。会議ではプロジェクターの有効活用の推進に努める一方、事務用紙の使用量削減を行っています。

*グリーン購入

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際、環境を考慮し、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

労働安全衛生

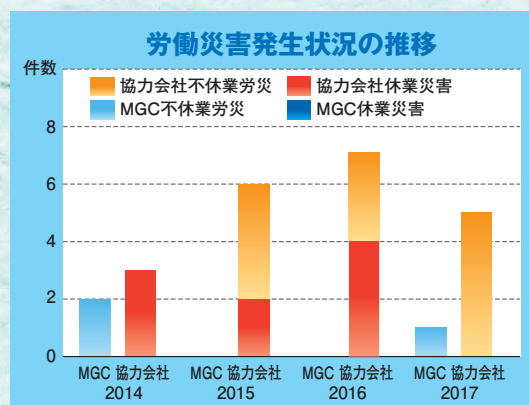
安全活動

◆労働災害発生状況の推移

三菱ガス化学(株)新潟工場の休業災害件数は2011年度よりゼロ件を継続していますが、昨年不休業労災が1件発生しました。協力会社の休業労災は昨年なかったものの、不休業労災数は増加してしまいました。引き続き協力会社の協力会社との連携を強め、様々な対策を進め、労災ゼロを目指します。



管理者によるパトロールの様子



◆「平成29年ゼロ災章」の授与

新潟労働基準協会において、事業者の安全衛生の関心を高めるとともに、その水準を高めることを目的とした「ゼロ災章」制度があります。新潟工場は本制度に合致することから、このゼロ災章に申請し、ゼロ災章を授与されました。



◆無事故・無災害に向けての取組み

新潟工場は、高圧ガス保安(完成)検査認定工場、ボイラー等開放周期認定工場として、高度な自主保安が求められています。また、日本海に面した工場立地であることから外部腐食環境が厳しい工場であり、外部腐食対策は最重要課題として外部腐食検査員制度(所内資格)の導入や厳しい機器・配管検査基準を設け、管理強化に努めています。

当工場の外部腐食への取り組みは国際会議(4th CCPS Global summit on Process Safety@岡山)で発表し高評価を頂きました。



また、製造現場での設備技術、運転管理技術の向上を図る場として、技術教育研修館を開設し、ミニプラント等を教材とした「保全道場」、運転訓練シミュレーターを用いた「プロセス道場」を開講したほか、2017年には現場安全を主眼とした「安全道場」を開講し、積極的に人材育成に取り組み、力量の向上に努めています。



安全道場

保安防災

保安防災活動

◆防災訓練

当工場は、多くの可燃性の化学物質を取り扱っています。そのため、万一に備え自衛消防を組織しています。年に1回、新潟市消防局、西港共同防災(株)と連携して消火活動を行う総合防災訓練を行っています。

2017年の総合防災訓練は、地震発生に伴う製造施設内から熱触油が漏洩、着火し、延焼拡大の恐れがあると同時に同装置内で作業していた方が被液したという想定で、工場内の協力会社にも参加していただき行いました。

そのほか、地震・津波想定での避難訓練、夜間の緊急連絡・駆付訓練や消火器での消火訓練、消火栓による放水訓練、物流事故を想定した訓練等を実施しています。



総合防災訓練



物流事故想定訓練

化学品安全

品質・安全管理の徹底・顧客満足度のアップ

ISO9001、14001の認証取得による安全・品質管理はもちろんのこと、製品、原材料、中間体や廃棄物に至るまでSDS*を完備しています。また、万が一の物流事故に備え応急措置時の安全情報を記載したイエローカードの携帯、小型容器イエローカードを導入等、徹底した安全管理の強化に努めています。

*SDS (Safety Data sheet) 製品安全データシート

化学製品を安全に取り扱うために必要な情報(物理的/化学的性質、危険性、有害性など)を記載した小冊子。化学製品の事故・災害を未然に防止することを目的に、供給者から使用者や取扱事業者へ製品毎に配付します。



耐熱性と非晶性を両立した
新規ポリエステル「アルテスタ™」

地域社会との交流

私たちは地域社会との共生を目指して、さまざまな機会を利用して地域の皆さんとのコミュニケーションを図っています。



毎年、新年に行われる松浜・南浜・濁川の3地区合同出初め式に、当工場の化学消防車も参加し、地域の防災行事に協力しています



新潟県防災局消防課主催の新潟西港地区石油コンビナート等特別防災地域協議会の研修が当工場で開催されました。



周辺住民や学生等、幅広い皆様に工場を見学して戴いております。
(写真:消防学校による工場見学風景)



毎年行われる春・秋の交通安全週間中、地域住民の道路横断者の安全を目的として旗振りを行っています。



海辺の森周辺整備協議会主催の保全活動に当工場も参加しています。今後も積極的に地域環境保全活動に取り組んでいきます。



新潟市のシンボルである萬代橋をメインに行われる「新潟まつり大民謡流し」に参加し、地域との親睦と融和を図っています。

◆新潟工場への代表的な質問

Q 夜になると煙突から炎が出ているのが見えることがあります。火事ではないのですか？



A これは火事ではありません。
上の写真はフレアスタックと呼ばれる設備です。ガスを煙突の先で安全に燃焼させ、ガスに含まる有害成分を焼却することでガスを無害化するために行う処置を行っています。

Q たくさんの白い煙が出ていますが、身体に害はないのですか？



A 上の写真は冷却塔と呼ばれる装置です。この装置から出る白い煙のほとんどは水蒸気で人体には影響がありません。

当工場は新潟市と公害に関する協定を結んでおり、煙突から大気に放出するガスに関して、窒素酸化物量、硫黄酸化物量等が規定されています。定められた項目に関して、大気に放出するガスを測定し、協定範囲以下であることを確認しています。

Q 夜も明るく照明がついていますが、どうしてですか？



A 当工場は24時間365日休みなく操業しています。そのため、安全を確認するため、パトロールを適時実施しています。

夜間においては、従業員が安全に移動し、各種確認作業をするため、照明を設置しています。

Q 工場で災害などが起こったらどうするのですか？



A 工場内には化学消防車を配置し、万一災害が発生した場合に備えています。

災害が発生した時は、直ぐに消防署に通報するとともに、緊急時には防火防災隊と呼ばれる自営防災組織を設置し、災害に対処致します。また、新潟西港共同防災(株)とも協力関係にあり、協同で災害に対処するシステムとなっています。



●お問い合わせ

 **三菱ガス化学株式会社**
新潟工場

環境安全室 環境安全グループ

〒950-3121 新潟市北区松浜町3500番地

TEL・FAX (025) 259-3945



このパンフレットは
再生紙を
使用しております。